

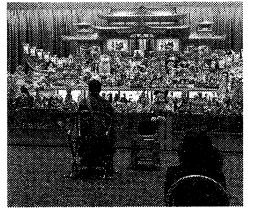
まんまんちゃん ニュース



株式会社高田
大聖寺永町38の1
☎72-1275
第38号 2021年夏

みきおちゃんご挨拶

5月3日、人形供養祭・タカダのオンライン終活塾を開催いたしました。どちらも感染予防のためにライブ配信としました。ご参加、ご視聴いただきました皆様には、厚く御礼申し上げます。変異型ウイルスが蔓延し、先の見えない状況がまだ続きそうです。お互いに気遣い、支え合いながら、コロナ禍を乗り越えていきたいです。



探検チヨロチヨロぼくのまち～鞆掛山～



コロナ禍で三密を避けつつ運動不足解消になるものはないかと考え、小学校の登山遠足以来の鞆掛山に挑戦することにしました。クマに出会うのも怖いので、ラジオをつけっぱなしにして「加賀のお新道」から登ることに。歩き始めて数十メートルで小さい沢が。ゴム長靴を履いてきてよかったです。さらに進むとがイドロープのある急坂もあります。整備してくださった方々に感謝しつつ登ります。ワラビがあちこちにあるので顔を覗き込んでいますが、最近では錦城山しか登ったことのない私には季節の草花を愛でる余裕はありません。ところどころにあるクマさんの案内板が私を癒してくれそうです。クマさんに誘導されつつ約1時間半で山頂に到着。お茶を飲んでみると、鈴の音とともに登山を楽しむご夫婦やトレイルランニングをする若者が現れます。下りもロープのおかげで転ぶことなく無事に下山できました。お陰様でいい汗をかくことができました。コロナ禍でも楽しめることを見つけていきたいですね。

メモリーズフレンズ～こめ工房の米谷さん～

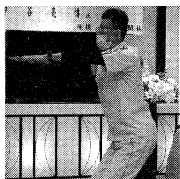
九谷焼というと能美市や小松市が有名ですが、もとは大聖寺が発祥の地です。そんな大聖寺神明町に工房を構える陶芸家、米谷彰能さんを訪ねました。米谷さんは製造業にお勤めでしたが55才で退職し、趣味で陶芸を始めました。ある時、干支のウサギを作り、知人にあげたところ、とても喜んでもらえたそうです。そこで陶芸に目覚めた米谷さんは地域の陶芸家や絵付け作家さんに学び、いしかわ県民陶芸展で奨励賞を受賞しました。その後、九谷焼技術研修所で陶芸家を目指す若者達とろくろを学び、今ではイベントなどで販売するほどに。作品を見せてもらうとロボットや火屋人などSFチックな人形やお皿が目につきます。今までにはないおもしろいものを作ってみたいという精神で作陶されています。趣味でしていたSF同人サークルの延長でもあるようです。「平面的だけでなく、立体的な造形が陶芸の魅力ですね。手に取ることで質感や肌触りも楽しめます」と語る米谷さん。確かに滝の様子を描いた絵皿は釉薬の具合がなんと立体感にあふれています。おもちゃ箱のような工房で、九谷焼の技法を用いて自由な作品作りをされていると感じました。「退職金も全部使ったわ。お金と家族には見放されたね」と笑う姿に、人生の楽しみ方を教えられました。



↑ ※ 作品のいくつかをFacebookにて紹介していますのでご覧ください。

人形供養祭・終活塾のご報告

5月3日に、人形供養祭とオンライン終活塾を開催しました。人形供養祭では事前受付期間を含め沢山のお人形をお持ちいただきありがとうございました。オンライン終活塾では、中谷接骨院副院長の中谷亮博先生をお招きして、今から出来る元気の秘訣をテーマにご講演して頂きました。人形供養祭・終活塾の様子はタカダホームページよりご覧になれます。是非ご視聴ください。



なるほど!ザ・おくり道～枕飾り～

自宅にご安置した故人様の枕元に設置する仮の祭壇のことです。宗派によって飾り方が異なりますが、基本は香炉、花立て、ろうそく立ての三具足を飾ります。香炉はお香をたくものでありますが、今では抹香のご焼香用とうすまき線香の2つを使っていることが多いようです。ご自宅にお仏壇がない場合、御本尊とおりんをタカダが設置します。なお、浄土真宗では守り刀やお箸を立てた枕飯をお供えすることはありません。

編集後記

三密を避ける楽しみとして、登山やキャンプといったアウトドアが盛り上がっています。以前に訪れたのは小学校何年生の時かおぼろしいですが、30数年ぶりに鞆掛山に登りました。子ども時代よく登れたものだなと、今の自分の体力のなさを感ずりました。メモリーズフレンズには陶芸家の米谷様に協力いただきました。ありがとうございます。鞆掛山、九谷焼といった豊かな自然や文化に手軽に親しめるのが加賀市の良いところだと思います。

ニュースターのご感想やご質問などお気軽にご連絡ください。

アドレス <https://www.takada-sougi.co.jp>
Fax 72-1265



タカダの
LINE公式アカウント

